

## 倫理

### 1 目標・使用教科書等

学習の到達目標	1. 地歴で学習した歴史的・社会的事象を、文化や思想の観点から説明できる。 2. 現代社会における諸問題を解決する手がかりとして、学習した思想を活用した考えを述べることができる。 3. 偏りのない幅広い教養を身につけ、身の回りの事象や個人としての生き方・あり方に関心を持ち、良識のある行動を実践できる。
使用教科書・副教材等	清水書院「新 倫理」、とうほう「アプローチ倫理資料」、啓隆社「倫理ノート」

### 2 学習指導計画及び評価方法等

月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	
4月	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生における青年期の意義を理解し、人生や将来を肯定的に捉えることができるようになる。</li> <li>青年期の最大の課題として、アイデンティティの確立があり、自分または自分にふさわしい職業を主体的に考察させる。</li> </ul>	
5月	第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 第2章 人生における宗教 第3章 人生の知恵	<ul style="list-style-type: none"> <li>先哲の思想を理解し、自らの生き方に重ねて理解させる。</li> <li>日本人の宗教意識や宗教が人生にとってどのような意味があるかを考えさせる。</li> <li>宗教の存在意義を考え、世界の多くで宗教が信仰されている理由を理解させる。</li> <li>「慈悲」と「アガペー」の違いを理解させる。</li> </ul>	
6月	第3編 現代社会と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代の特徴と思想の関係性に注目できるようになる。</li> <li>ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、基本的な知識理解をもち、それを踏まえて自己自身の考え方を表現し文章にまとめることができるようになる。</li> </ul>	
7月	第2章 現代に生きる人間の倫理		
8月	第1節 人間の尊厳		
9月	第2節 自然や科学技術と人間のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>神のような超越的なものではなく、現実世界の中で現実的な考え方で、人間のあるべき姿を理解させる。</li> <li>科学的な考え方とは何かを理解し、客観性のある態度を身につけさせる。</li> </ul>	
10月	第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義社会の本質やあり方を理解させる。</li> <li>社会契約説などの思想を考慮しつつ、近代市民社会の持つ矛盾を課題とした、ヘーゲルの人倫思想、功利主義、社会主義思想などについて理解させる。</li> </ul>	
11月	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本文化の成り立ちを、外来文化との関係で理解させる。</li> <li>和辻の風土などに即して日本の風土や日本人の自然観・宗教観・倫理観の特徴を理解させる。</li> <li>神の観念や穢れ、清明心等の概念を把握し、それを用いて文章を書くことができるようになる。</li> <li>外来思想としての儒教や西洋思想が、日本社会に合わせて、変化している様子を理解させる。</li> </ul>	
12月	第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 第3節 儒教の日本化 第4節 日本文化と国学 第5節 近世庶民の思想 第6節 西洋近代思想の受容		
1月	問題演習		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習した事柄を活用して問題を解くことができるようになる。</li> <li>たしかな根拠を理由として正解を導き出せるようになる。</li> </ul>

### 3 評価方法

定期考査 提出課題及び提出状況（考査の見直しノート提出など）